令和7年度 富山高等学校アクションプラン -3-

重点項目	進路支援	
重点課題	生徒一人ひとりの適性や能力を引き出す学習・進路指導	
現 状	<p>1 本校では、週間課題を生徒に課しているが、自らの進路意識が薄く課題を「やらされている感」を持っている生徒が年々増加しており、課題提出率が低くなってきている。</p> <p>2 本校では、生徒の進路意識の向上と学習意欲の喚起を目的に、折に触れて様々な進路行事を開催している。さらに外部講師を招き、1・2・3学年とも進路講演会を行っている。これらによってモチベーションを高める生徒がいる一方で、進路意識が高まらない生徒も散見される。</p>	
達成目標	<p>1 「自ら学ぶ集団」を作る進路指導の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題の量・取り組み方の指導について教員側が工夫をこらし、生徒が自主的に取り組めるようにすること。 ・「10の力」のうち「主体的行動」の目標とする基準が3以上となる生徒の割合が80%以上となること。 	<p>2 進路目標(志望校)の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種進路行事・外部講師を招いての進路講演会を通じて、「10の力」のうち「進路意識」の目標とする基準が3以上となる生徒の割合が80%以上となること。 ・目標とすべき志望校が、第2学年が終了するまでには決定していること。
方 策	<p>1 教員側が各教科の指導において、いっどのような課題を与えてどんな力をつけるかを工夫し、生徒によく理解させ、自主的に課題に取り組ませる。</p> <p>2 学年集会や面談等を利用し、進路を考える機会とする。</p> <p>3 高い進路目標を持つ集団を、学習会や大学志望別集会などを通じて早期に形成させ、お互いに切磋琢磨できる環境を学校生活のさまざまな場面で育成するように努める。</p> <p>4 学習支援講座や講演会、「進路のしおり」等を通して、生徒にとって必要かつ有意義な情報の提供ができるように努める。</p> <p>5 社会人や大学生を招いたキャリア教育により、主体的に「学びに向かう力」を育むことができるように支援する。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

令和7年度 富山高等学校アクションプラン-4-

重点項目	特別活動の充実	
重点課題	「非認知能力(10の力)」を高める特別活動	
現 状	<p>富山高校は、伝統的に教科指導だけでなく、特別活動が盛んにおこなわれてきた学校である。令和5年度には、生徒会則が見直され、生徒主体での組織運営をより志向したものとなった。また、体育大会や文化活動発表会、予餞会といった行事に生徒の意見をできるだけ反映させることを試みたり、生徒と教員が対話的に生徒心得の見直しを行うなど、伝統は今に受け継がれている。</p> <p>こうした流れを継承しながら、令和6年度より明示された「10の力」のうち、特に①主体的行動、③規範意識、④対話、⑤協働、⑧創造性、そして⑩慎重敢為の6項目の伸長を図り、学校目標「人類の発展的未來に貢献する人間の育成」に資する環境を整えていくことが、今年度以降の課題となると考えられる。</p>	
達成目標	<p>1 「特色のあるホームルーム活動」を対話的に計画し、実施したクラスの割合100%</p>	<p>2 「10の力」のうち、①主体的行動、③規範意識、④対話、⑤協働、⑧創造性、⑩慎重敢為の伸長を実感する生徒がルーブリック段階評価で90%以上</p>
方 策	<p>1 前年度のホームルーム活動を踏まえて、投げかけを行う。</p> <p>2-1 昨年度の生徒会則の変更に基づいた生徒会の運営を支援する。</p> <p>2-2 また、文化活動発表会の普通科クラス展示について、総合的な探究の時間との学びの接続を模索し、充実を図る。</p> <p>前提として、学校目標および「10の力」について、生徒と十分に共有を行う。また、教職員自身も生徒とともに「10の力」の伸長に努める。</p>	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)